

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
---------	------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	自然環境課長 齋藤 晃大	電話番号	0852-22-5346
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業		
目的	(1) 対象	県民及び県を訪れる人々	
	(2) 意図	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	
事業概要	三瓶山及びその周辺の豊かな自然の中に設置した「三瓶自然館サヒメル」等を活用し、自然とふれあい親しみながら、島根県の自然環境や自然史に関する展示、天体観察を通して、質の高い自然学習の機会を広く県民に提供することを目的として、下記事業を実施する。 ・三瓶自然館サヒメル等の指定管理委託 ・小豆原埋没林公園保存検討と保存処理の実施		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	サヒメル等の利用者数	目標値	147.0	147.0	147.0	147.0	千人
	式・定義	サヒメル等の利用者数	取組目標値					
			実績値	131.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	360,407	308,022
うち一般財源(千円)	351,416	294,525

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

1. 三瓶自然館及びその付属施設については、指定管理者が下記事業などを実施 ①企画展等の開催(春、夏、冬の3回)、自然観察会、天体観察会 ②各種イベント開催などを通して、自然に対する理解を深める取り組みの実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) 2. 小豆原埋没林公園保存検討 三瓶小豆原埋没林保存処理方法についての方針決定を行った。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> 三瓶自然館及びその付属施設については、企画展やイベントの積極的開催などにより、一定の集客できた。 小豆原埋没林の保存について、問題点や工法検討を進めた。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」 <ul style="list-style-type: none"> 三瓶自然館の展示関係について、重要な学術的価値や、最新の情報が十分に伝えられない。 小豆原埋没林について、来館者にその価値が十分に伝えられない。 外国人の施設利用がほとんどない。
②困っている状況が発生している「原因」 <ul style="list-style-type: none"> 三瓶自然館の展示関係について、施設・設備の整備後年月を経て劣化してきており、内容も大幅な更新がなく今日の視点からは古くなってきている。 三瓶小豆原埋没林公園には、展示解説的な施設・設備がほとんど無い。 外国人の来訪を促す取り組みをしていない。
③原因を解消するための「課題」 <ul style="list-style-type: none"> 三瓶自然館の展示関係については、学術的な内容や、今日のテーマ設定、展示解説の手法など未整理。 小豆原埋没林について、ガイダンス施設整備の方針決定がされていない。 地域全体で外国人の来訪を促す取り組みをする必要がある。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・インバウンドも視野に入れ三瓶自然館の施設や展示の在り方、小豆原埋没林のガイダンス施設についても一体で検討する。 また、検討にあたっては、専門家や地域の意見を聞いて地域全体で取り組む。

9. 追加評価 (任意記載)

--

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。